

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

# 第18集

(長野県道 1 号線～508 号線)

NO.120 戸隠へのバス路線を走る

(長野県道 76 号走破) (長野県道 453 号走破) (長野県道 506 号走破)

NO.121 ぴんころ地蔵さんは2度目のお詣り(野沢・中込)

(長野県道 78 号走破) (長野県道 139 号走破) (長野県道 144 号走破) (長野県道 145 号走破)

NO.122 小諸市～東御市(ワイナリー)～上田市

(長野県道 79 号走破)

NO.123 箕輪町・南箕輪村の活気を感じました

(長野県道 87 号走破) (長野県道 88 号走破)

NO.124 関川の関所を再び訪れました

(長野県道 119 号/新潟県道 280 号)

NO.125 北相木村から県道 124 号線で上野(群馬県)の吊橋を渡りに

(長野県道/群馬県道 124 号)

NO.126 米路橋から信更町(旧信更村)を山越えし篠ノ井に

(長野県道 70 号走破) (長野県道 387 号走破)

戸隠へのバス路線を走る

澤田 繁 著

(長野県道 76 号走破) (長野県道 453 号走破) (長野県道 506 号走破)

2021.8.31 自宅から千曲市の娘の家により川中島を通り県庁前まで来た。信大教育学部前の交差点で国道 406 号線に入り、鬼無里方面に向かうと頼朝山トンネル東交差点に到達。ここから県道 79 号線 (長野戸隠線) が始まる。始まり地点の標高は 420m であり、山間の村を次々と結びながら登っていく道路でした。まずは、

茂菅地区で 1889 年には旧長野町と合併した村、国道 406 号線 (大田市~高崎市) のトンネルの上を通過し 2km 程登ると、旧芋井村の 鑪地区に入る。さらに旧芋井村桜地区・広瀬地区・入山地区を通り、旧戸隠村 (標高 950m) に入ると開けた感じになり登りも緩やかなになった。県道 506 号線と交わりすぐに終点の県道 36 号線 (第 9 集 NO .60) に到達した (県道 76 号線走破)。

この路線は、バス路線「県道戸隠線」の路線であり、長野バスターミナルから長野駅を回り戸隠



神社中社まで、1 日 10 往復程度走っており、所要時間は約 1 時間 20 分であったが、一度もバスと行き会う事がなかった。50 年前に戸隠へのスキースキーの帰り通った事があり、結構狭かった事と下りで車が滑った記憶がある道である。当時より道幅はかなり改良されていました。

戸隠神社宝光社まで進み、Uターンして県道 76 号線に戻って来ました。少し県道 76 号線を走り、県道 506 号線 (戸隠高原浅川線) (標高 1020m) に入りました。この路線途中までバードラインでもある。バードラインは、1964 年から有料道路として開通し、善光寺雲上殿のすぐ上の料金所でお金を払い、地附山を登ると、尾根道が多くなり、徐々に標高が上がって行く道であった。1969 年から学生として長野に住み、特に飯綱高原スキー場に良く行った。バードラインの中間料金所 (大座法師池) の手前で、飯綱高原スキー行きは右折して行った。このバードラインは 1985 年の地附山の地すべりで、料金所の近くが通行不能になり大峰城までの区間が廃線となっ

まった。又 1997 年無料化された。県道 506 号線は、バードラインと重複して走り、県道 404 号線との交点からは、バードラインとは分岐し、しばらく県道 404 号線（栃原北郷信濃線）と重複する。バードラインからスキー場に向かう道と交差した。飯綱高原スキー場へは、学校からスキー場が見えたので、行くのは必ず天気の良い日であり、平日でもあったので、リフトが待っているスキーを楽しんだ（ぜいたくスキー）、コース名は忘れたが、資料によると標高差 400m 距離 1500m とある。リフトの長さは記憶によれば 840m の長いリフトに乗り、体力を回復して、リフトを降り、遠くに槍ヶ岳を見て、一気に滑り降りると又リフトが待っている。そんなスキー場が雪不足も重なり閉場となったのはさびしい。

県道 506 号線は、高原のなかを走るが、県道 404 号線との重複部分は、道幅が広くはなく木の中を走る感じであった。県道 404 号線とは十字路（標高 1000m）で分かれ、県道 506 号線は右折して下りの道になる。ここから標高 420m の終点でもある県道 37 号線の三差路までは、オリンピック（1998 年）のために間に合わせた道路になる。飯綱高原スキー場では、フリースタイルのモーグルとエアリアル競技が、少し下ったところにある「スパイラル」で



は、ボブスレーとリュージュ競技が行われた。この道には、ループ橋があり、一気に下る感じがする。県道 37 号線（第 1 集 NO . 74）に出て南下し、湯谷小学校西交差点を左折し、サンロードを走り、サンロードが切れても東に進み、国道 18 号線の大町交差点に到達し、後は、須坂長野東インターまで行き、高速に乗り帰宅した（県道 506 号線走破）。

2022.11.1 奥裾花に行った帰りに鬼無里から県道 404 号線を通り、バードラインまで上がって、バードラインを大座法師池まで来ました。森の駅（nagano forest village）にて、食事をしました。ここ一帯が開発されていて、建物もデザインされ新しく、いろいろ出来そうです（池も有効に利用している）。農産物をちらっと見てから、県道 453 線（飯綱高原芋井線）を走り始めました。旧芋井村上ヶ屋地区を下って行く道で、芋井小学校がある所から旧芋井村桜地区に入り、少し桜地区を走り、県道 76 号線と交わり終点となる（県道 453 号線走破）。この日は、長野市内を走り、小布施スマートインターから帰宅した。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.3

ぴんころ地蔵さんは2度目のお詣り(佐久野沢・中込)

澤田 繁 著

(長野県道 78 号走破)(長野県道 139 号走破)(長野県道 144 号走破)(長野県道 145 号走破)

2024.12.3 岡谷インターで降り、新和田トンネルを通り、「道の駅和田宿ステーション」にて、天ぷらそばを食べ休憩した。そのまま国道 142 号線(下諏訪町~軽井沢町)にて佐久盆地に行きました。途中にある、「道の駅女神の里たてしな」で干し柿を買い、車中で食べながら向かいました。

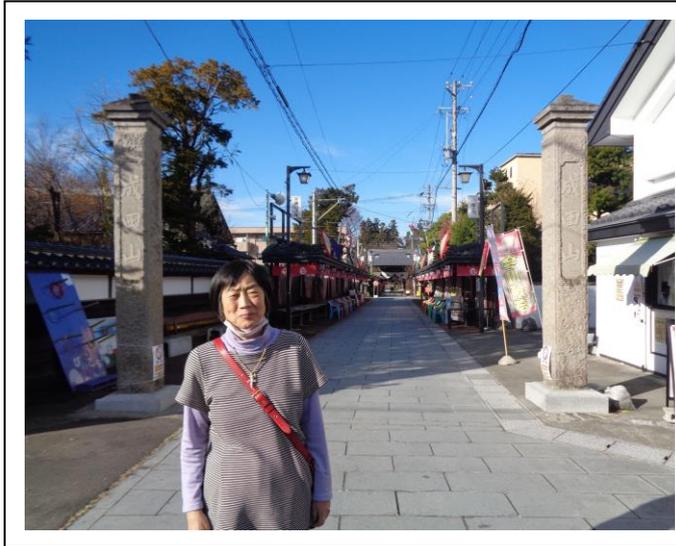
国道 142 号線(国道 254 号線と重複)の旧浅科村を走り、「道の駅ほっとぱーく浅科(火曜定休)」を過ぎると、旧野沢町に入り、2つの塔をもつ建物のある「イングリッシュガーデン風の丘しいある」の前に到達した。この先にある相浜交差点からは、県道 145 号線が分岐しており、さらに国道を進むと、県道 78 号線の始点の香沢入口の交差点がある。交差点から 600m で国道は片側 2 車線の道路となり、中部横断自動車道の下をくぐり、佐久南インター前にある「道の駅ヘルシーテラス佐久南」を通り、国道 141 号線との交点の跡



部交差点に到達した。国道 142 号線は跡部交差点から国道 141 号と国道 18 号線と重複して中軽井沢までの路線となっている。跡部交差点を直進するとすぐ片側 1 車線になり、国道 254 号線(松本~東京)単独の国道となった。野沢本町の交差点を直進して県道 144 号線(本町中込停車場線)に入り、野沢十二町の三差路を左折し、ぴんころ地蔵の前を通過し、中込駅に着いた。ここで休憩し駅前を散策した(県道 144 号線走破)。

2022.1.4 岡谷インターから国道 142 号線に入り、相浜交差点を右折し県道 145 号線(相浜本町線)に入り、佐久盆地の南端の山沿いの道を走った。昭和 29 年まで岸野村であった、根岸地区と伴野地区から同じく前山村であった、小宮山地区と前山地区を走り、国





道 141 号線付近から昭和 29 年までの旧野沢町に入りました。そのまま国道 254 号線と県道 144 号線の交点である野沢本町交差点に着きました（県道 145 号線走破）。この日は、県道 144 号線を走り、1 回目のぴんころ地蔵をお詣りにいき、臼田方面にいき、中込まで戻って県道 139 号線を走りました。

2024.12.3 中込駅から佐久鯉を買いに県道 144 号線に戻り、魚甲本店に車を止め、ぴんころ地蔵に 2 度目のお詣りをして、参道を帰って来る途中で易者さんと話をしたら、3 度お詣りするとご利益が増すとの事でしたので、いつかもう一度来たいと思いました。魚甲さんで「一匹まるごと甘露煮の鯉」を見て感心しましたが買えずに、かわりに切り身等を買って、野沢本町交差点で国道 254 号線に出て、中込交差点に向かいました。国道 254 号線の中込交差点は、県道 2 号（第 5 集-N O.29）の終点でもあり、県道 139 号線の始点でもある。左折し県道 139 号線（中込小諸線）に入り、旧中込学校の駐車場に車を止め見学しました。

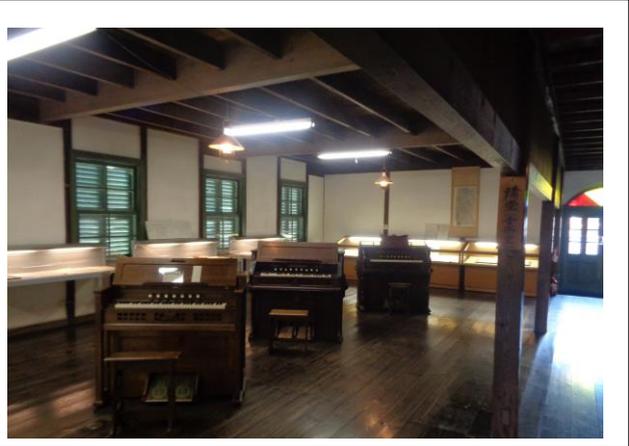


旧中込学校は明治 8 年（1875 年）に完成し、国内の学校建築のうち現存する最古級の擬洋風建築物で、重要文化財に指定されています。建築設計したのは、地元出身でアメリカに渡り建築学を研究した市川代治郎氏で、外部窓・内部間仕切りなどの一部に当初と変わった点もありますが、日本人の手による明治初期木造洋風建築の様式を知る重要な建物になっています。中央の八角塔は、天井から太鼓を吊るして時を告げ、村人たちはこの太鼓の音で正午や 10 時、3 時のお茶の時間を知り、いつしか「太鼓楼」と呼ぶようになったほ



か、窓に当時は珍しいガラスを使用していたことから「ギヤマン学校」ともよばれ、開校当時は見学する人たちが連日あとを絶たなかったといわれています。当時の下中込村の村民の負担と寄付で建設された太鼓楼の天井には、ロンドン、パリ、ローマなど世界各地の都市を示す方位図があり、子供たちに世界に目を向ける人になってもらいたいという村人の願いがうかがえます。このようにして完成した学校も、大正のはじめころから狭くなり、大正 8 年に新校舎が建築され、その後の旧中込学校は、中込町役場、中込町公民館、中込支

館、佐久市役所分室、佐久市開発公社と再利用されました。そして、昭和 44 年に明治建築の学校として改変の比較的少ない建造物であることから重要文化財に、そして校舎の場所が明治 8 年から変わっていないことから国史跡に指定されました。色鮮やかなステンドグラスの丸窓や各教室に当時の資料が展示され、当時の子どもたちの勉強風景を目に浮かべることができます。(佐久市ホームページより)



2022.1.4 中込交差点より、県道 139 号線を走った。佐久市中込地区から、昭和 29 年まで高瀬村であった今井・三河田・横和地区を通過し、根々井地区に入る。中部横断自動車道の下をくぐり、佐久中佐都インター入口近くを通り、昭和 29 年まで中佐都村であった地区の平塚・塚原・常田地区を通り、次に同じく三岡村であった市・森山地区を通り、小諸に入る。小海線としなの鉄道の上を通り、500m 程旧北国街道を走ると国道 141 号線と交わる(県道 139 号線終点)、近くに小諸東中学校がある場所であった(県道 139 号線走破)。

2020.7.28 麻績インターから修那羅峠を越え、青木村から丸子方面に行き、千曲ビューラインで小諸市に着いた。小諸懐古園の横にある「信州蕎麦の草笛小諸本店」で昼食を食べ、国道 141 号線を走り、御幸交差点を右折し、県道 78 号線(佐久小諸線)に入った。「蔵の粉屋大西製粉」に寄り、千曲右岸に沿って南下していく、現在は小諸市だが、前は三岡村であった森山地区に入り、さらに耳取地区を通過し、中山道宿場町の塩名田地区に入った。少し宿場の雰囲気が残る場所があった。塩名田からは佐久市になり、次の旧高瀬村の鳴瀬地区では、県道 78 号線は、県道 103 号線(上原猿久保線)と 1km 程重複しており、湯川を渡った後分岐する。湯川を渡って 1km 程で千曲川を渡り、旧岸野村の伴野地区に入る。伴野地区を出てすぐ旧岸野村根岸地区にある、終点の国道 142 号線との交差点でも

ある沓沢入口交差点について(県道 78 号線走破)。この日は佐久南インターから八千穂高原インターでおり、国道 299 号線(メルヘン街道)で麦草峠を越え諏訪南インターから帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.3

小諸市～東御市(ワイナリー)～上田市

澤田 繁 著

(長野県道 79 号走破)

2021.2.9 群馬県に行った帰り道、小諸インターで降り、県道 79 号線(小諸上田線)を始点の市町の三差路(国道 141 号交点)まで行って戻って来ました。ここから上田方面に向かいました。小諸インター北交差点にて、県道 80 号線(第 14 集 NO.96)と交わり、県道 80 号線の呼称「浅間サンライン」を継承して、県道 79 号線と浅間サンラインが分岐するまで「浅間サンライン」としても走る。原口交差点の手前 500m から東御市に入りました。



原口交差点からすぐに、「道の駅雷電くるみの里」があり、良く利用する。そこから上信越自動車道と平行してしばらく走ると、高速道路下をくぐる手前で、県道 4 号線(第 6 集 NO.38)と交差する。

『2021.1.26 県道 4 号線を走るついでに、東御市のワイナリーに行きました。前に一軒ワインを買った所の「アルカンヴィーニュ」は、県道 4 号線から狭い道を登っていったが、今回は田沢交差点から広い道で行く事が出来ました。前に「アルカンヴィーニュ」に行く前に、東御市のワインの先駆者の玉村豊男さんがオーナーの「ヴィラデストガーデンファームアンドワイナリー」に行きましたが、人が多くてとても食事が出来なかったので、庭を回って、ショップを見て引き返して来ました。』

2021.2.9 県道 79 号線を進み、県道 4 号線と交差し、昭和 31 年まで<sup>おつ</sup>称津村(現在東御市)であった地域の県





道79号線を進むと東部湯ノ丸ICの横を通り、さらに進むと、昭和31年まで和村（現在東御市）であった地区を通る。栗林西の交差点で県道79号線と浅間サンラインは分岐し、浅間サンラインは国道144号線の交点古里西交差点で終点となる。

2024.12.3 前作のびんころ地蔵・中込学校から中佐都インターで高速に乗り、東部湯ノ丸インターでワインを買いに降りてまた戻ってくる事にしました。

前に一度、東町歌舞伎台を探していたら見つからずに代わりにブドウ畑にでた事があったので、ワイナリーを探してナビで行く事にしました。ナビの指示では、かなり狭い所を右左に曲がらされてなんとかワイナリー「リュードヴァン」に到着する事が出来ました。女房に試飲をしてもらい、クリスマス用に白ワインを、正月用に赤ワインを買いワイナリーのひとと話をして、外ですぐ前の私のこだわっているブドウ種類「カベルネソーヴィニヨン」畑を見て、10分後に、ブドウ畑を散策しに出発しました。ワ



イナリーからすぐ横の丘を登ると広大なブドウ畑に偶然出会う事が出来ました。車で上の行き止まりまで行き、Uターンして帰ってきました。下りでは、下の東御市市街が良く見える場所で景色が良い所でした。又テラス風な建物のも建



設中で、道も整備中で工事の人があちこちにいた。

ワイナリーまで戻って来て、東部湯の丸インターまで前に通った道を逆走して、昭和31年まで柵津村であった



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.10

箕輪町・南箕輪村の活気を感じました

澤田 繁 著

(長野県道 87 号走破) (長野県道 88 号線走破)

2024.12.10 松本で用事を済ませ、塩尻市の金井交差点で国道 153 号線(塩尻市~名古屋市東区)に入りました。1971 年道路改良されるまでに一度走った、今でもところどころカーブの多い旧道が見える、峠までの登坂車線を数分で分水嶺のある善知鳥峠(標高 889m)まで走ると、ここからなだらかに川に沿って下って、今日の目的地伊那北(標高約 660m)まで走った。

伊那に下道で行くには、国道 153 号線のバイパスが伊那近くまで伸びる前は、信号の少ない伊那西部広域農道を使う事が多かった。県道を走り出した時以降の 2020.12.8 に国道と広域農道の間にある県道 88 号線(伊那箕輪線)を走った。県道 88 号線は春日街道とも呼ばれ、始点は二つあり、一つは、国道 153 号線の沢上北交差点から伊那西部広域農道に入り沢上北原の交差点であり、一つは国道 153 号線の沢上交差点からである。路線は真っすぐな道がほとんどで、箕輪町と南箕輪村を走り、国道 361 号線との交点の沢尻南交差点で終点となる(県道 87 号線走破)。

2024.12.10 は、沢上交差点からバイパスを避け国道 153 号線(三州街道)に入り、箕輪町と南箕輪村を散策する事にした。ベルシャイン伊北店で買い物し、県道 88 号線に出て、南下しパン屋さんを探してみました。箕輪町役場周辺をうろうろしたりして、県道 88 号線沿いのパン屋らしきところで車を止め、店内を覗きに行き「ケーキ屋」と分かり、車に戻り、ケーキを買ったお客さんにパン屋を聞きましたら丁寧に教えてくれました。教えてもらった「窯屋」さんをナビで調べて向かいました。途中「これぞパンです」が国道沿いにあったので、寄って食パンを買いました。喫茶が併用されていましたが、時間でクローズでした。さらに国道 153 号線の



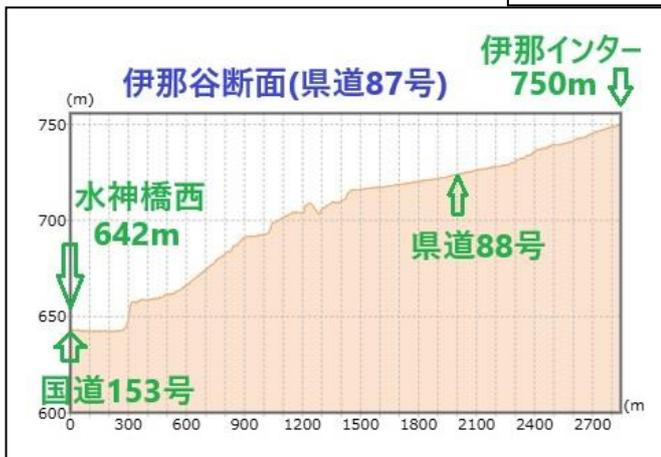
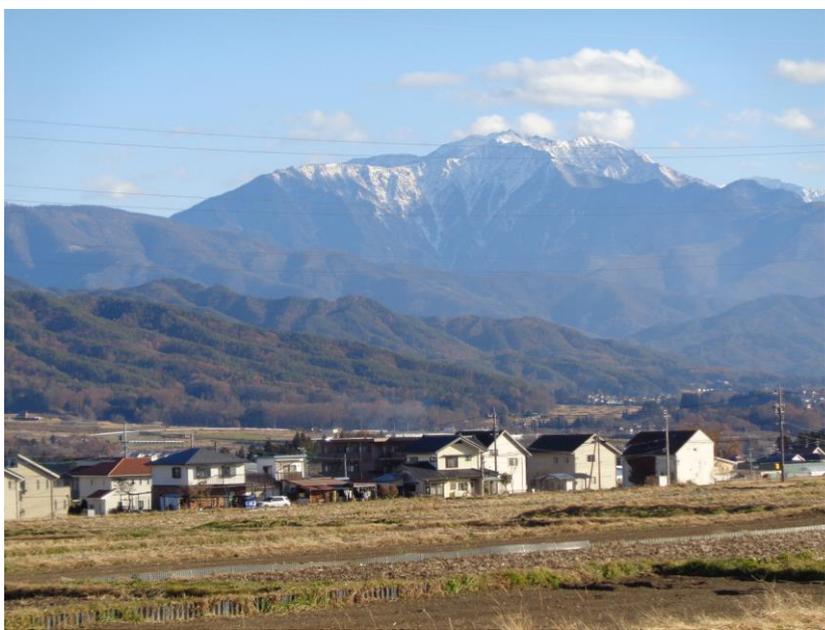


バイパスに出て、三日町曾根田の交差点から少し入ったところにあった「パン茶房窯屋」さんに、古風な建物と扉からどんなパンがあるのか気にしながら入りました。丸い食パンがあつたりした。他にも、「うまこパン」や「ベーカリーベルグ」等が南箕輪村にあり、今度行った時に訪ねて見たいと思っています。

箕輪町と南箕輪村は、活気のある地域として注目を集めている所でもある。面積的にも広い地域であるが、三州街道よりや、国道 153 号線バイパス近辺が工場や商業施設が集まりだしている。住宅地

も中央アルプスに向かってのなだらかな傾斜に沿って上に伸びている。景色も良く、特に大きな仙丈ヶ岳が中心に見える。地元のテレビ番組でも、良く放送されており、特にパン屋さんの紹介が目立っていた記憶から今回パン屋に行って、パンを購入し食べて見たいと思った。

パン屋を出て、国道 153 号線のバイパスを伊那方面に、天竜川を渡り県道 19 号線に乗り換え、新水神橋東交差点から、天竜川を渡り双葉町交差点で国道 153 号線に戻り、伊那インタ



ーに向かいました。双葉町交差点から 400m で県道 87 号線（伊那インター線）に入り、伊那インターまで約 3km 登って（標高 642m～750m）行きました。インターへの取り付け道路とあって、広い道で、一部片側 2 車線の道路でした（県道 87 号走破）。この日は伊那インターから帰宅した。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.17

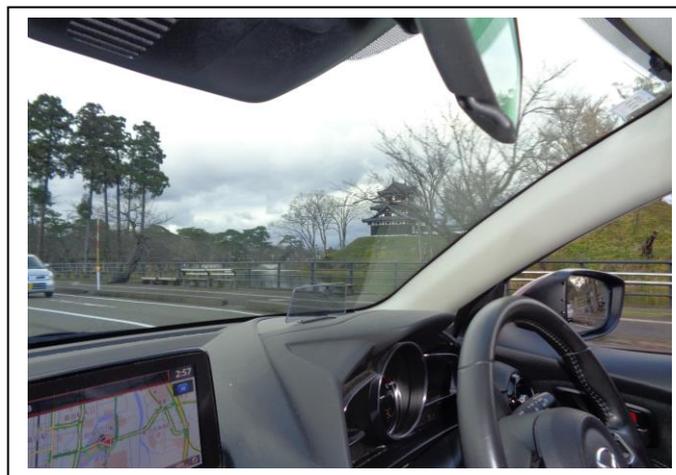
関川の関所を再び訪れました

澤田 繁 著

(長野県道 119 号/新潟県道 280 号走破)

2024.12.17 上越に行き、荒れた日本海を見て、食事と買い物をして帰途に着きました。一般道を南下し、高田城下町に寄りました。高田駅の西側から入ったため、寺町の寺が密集する所から線路を渡り、雁木が始まる町屋の仲町通りを通り高田駅前まで走りました。雁木は各個人宅がそれぞれ作った状況(家に寄って違う)が見え、それとは別に、屋根には同じ仕様のはしごがかけてあって、統一感と個々感が同時に見れて面白かった。

駅から、高田城跡を一周し、高田城のシンボルの三重櫓(本丸は建設されなかった)を写真に撮り、



南本町2丁目交差点で北国街道(新潟県道579号線)に出て、さらに南下し、途中新幹線の上越妙高駅に立ち寄った。北国街道は、新潟県道579号線に沿って残っており、その後、妙高はねうまライン・北しなの鉄道(旧信越本線)に沿って、やはり今でもところどころ残っている。上越妙高駅を出て、国道18号線と交わったところで国道18号線に入り、新井スマートインターから高速道路に乗り、約20km走り妙高高原インターで降り、再び国道18号線に出て南下し、杉野沢入口交差点を左折し、新潟県道39号線を通り関川交差点を右折して旧国道18号線

(旧北国街道)に入った。しばらく走ると長野県と新潟県の県境にある「関川の関所」に到着した。雪の関所がどうなっているのかと思ったが、現時代では見事閉鎖してあった。「関川の関所は、越後や北陸から信州の善光寺への参拝や、諸大名の参勤交代の際にも関門として使用された、重要な要衝だったそうです。また、佐渡の金銀を江戸城へ輸送する際や、北前船で運ばれた瀬戸の塩を信州へ運ぶ物流の動線としても使用され、越後に5箇所あった関所の中で最も重要視されていました。」とある。関川の関所の写真は、左が今回で手

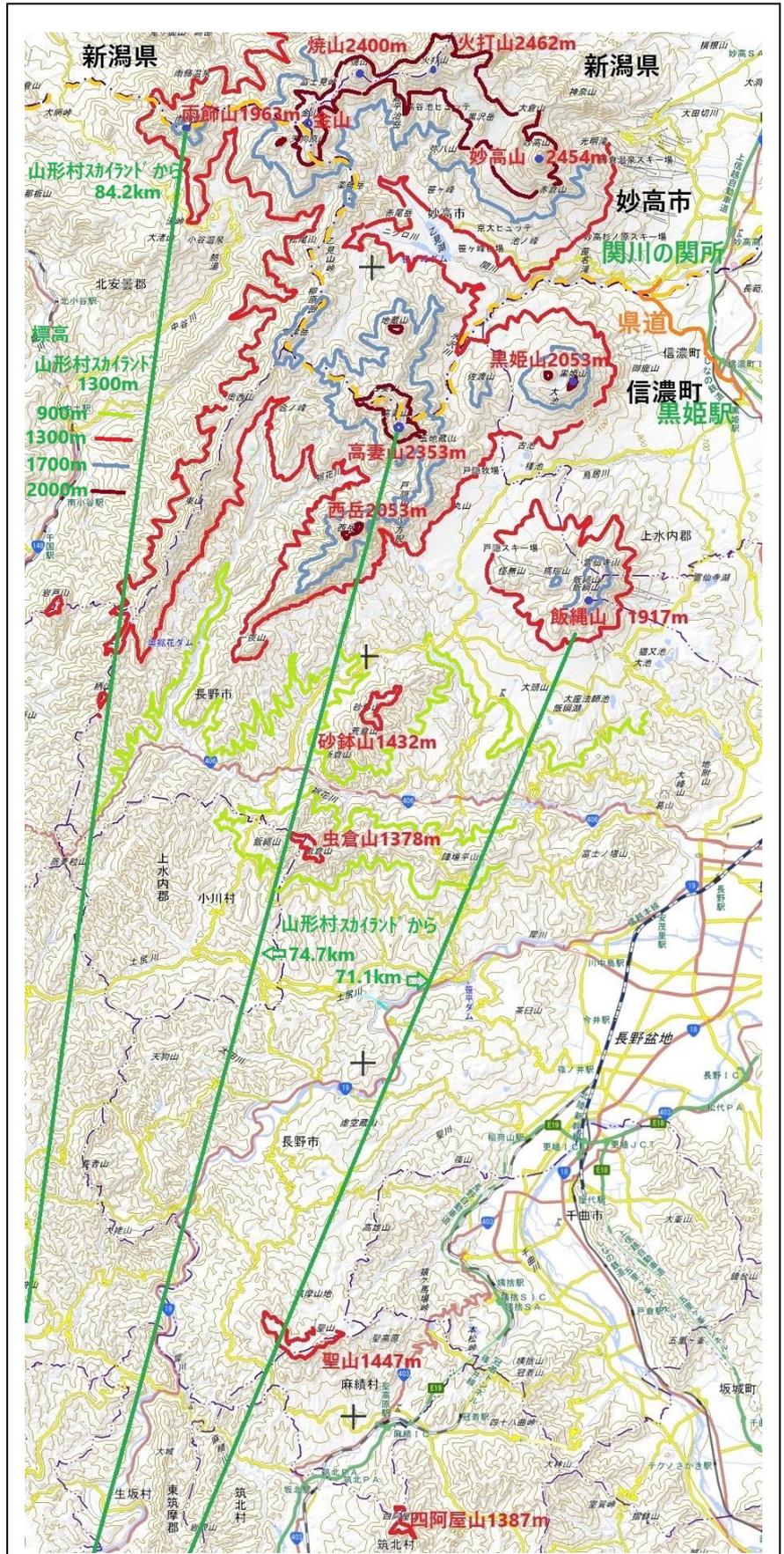


前に関川が流れており、奥に関所の門が見える。右が前回で手前に門、奥に関川に架かる橋が見える。

県境の橋を渡り、長野県に入り、旧国道18号線の登りのカーブを登った。1997年(平成9年)に、信越大橋が完成するまでの国道であり、何度か通ったカーブの県境であった。国道18号線に出てから、信濃町・飯綱町・長野市・千曲市と通り、娘の家に寄り帰宅した。

長野県と新潟県の県境の山は、自宅のある山形村の清水高原からよく見える。三角のが活火山の「焼山」で、右には「火打山」が見え、左には「金山」と「雨飾山」が見える。県境は、雨飾山から金山までが東西の県境で、金山からの県境は、南下し「高妻山」まで入りこんでいる。清水高原の宿泊施設「スカイランドきよみず」の標高は1300mであり、図の赤線が1300mとなる。又距離は雨飾山まで84.2km・金山まで85.1kmだが、高妻山までは74.7kmとなっているため、火打山(距離88.3km)の右に写る高妻山は、計算上2353mより192m高く写る。従って火打山が標高2462mに対して2545mとなり高妻山の方が83m高く写る。県境は高妻山から北東に行き関川からは東西になる。従って、頸城三山と呼ばれる、焼山・火打山・妙高山は新潟県の山となる。

写真に写した山名の特定には、写した場所が分れば「カシミール」のソフトを前は使っていたが、今回



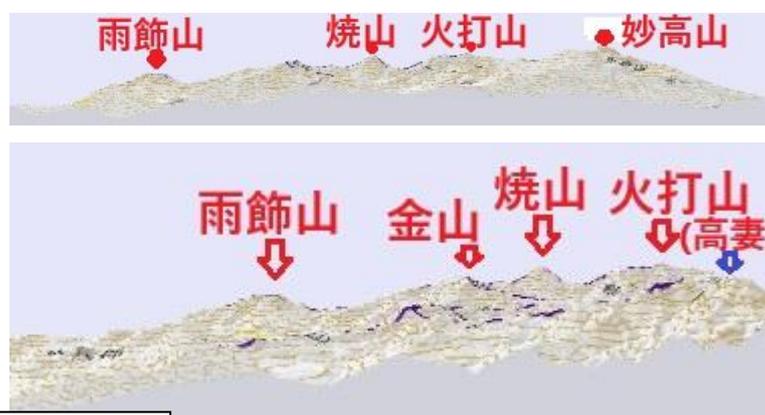
は、一応調べてもらった山々でもあり自分でもう一度やってみました。無料で使える「国土地理院の地図」のサイトに入り、地図上で範囲を示せば3Dが作れるので、3Dを作り、さらに地図に標高線に色を加えて特定しました。

(右図中が3Dで作った図)

2021.6.1 信濃町インターから黒姫駅から始まる、長野県道119号線/新潟県道280号線(杉野沢黒姫停車場線)を走りました。黒姫駅から国道18号線の黒姫高原入口交差点までは、前に走っているのので、黒姫高原入口交差点をスタートしました。

昔よくスキーに行った黒姫スキー場への道である。道なりに進むと、案内があり、黒姫スキー場1.0kmとありました。最近ではスキー場にコスモス園もあり、案内にも出ていました。

この県道ここから初めて走る道でし



た。最初は、道沿いに畑は残るものの次第にペンション等が目立つ道になり、そば処「たかざわ」があったが入らず進むと集落があり、そのまま関川を渡り新潟県に入った。ここから番号が変わり280号線となった。寄り道し、苗名滝(日本滝百選・別名地震滝)に行ってみようと思ひ、駐車場まで走って、後は徒歩のパターンであったが、徒歩時間が我々の限界を超えていたので引き返し新潟県道280号線に戻りました。この辺が妙高市杉野沢地区で、妙高杉の森スキー場(一度も滑った事がない)の宿泊施設が多くある所ようだ。新潟県道39号線と交わり県道280号線の終点となった(長野県道119号/新潟県道280号線走破)。

県道39号線を通り、国道18号線を突っ切り、関川の交差点から旧北国街道(旧18号線)に入り、関川の関所に着いた。道の歴史館を見学して、関所の様子が良く分かった。となりのそば屋さんでそばを食べ休憩し、妙高市内を散策し新井SICから帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.20  
 北相木村の県道124号線を上野(群馬県)の吊橋を渡りに  
 (長野県道/群馬県道 124号走破)

澤田 繁 著

2022.9.13 塩尻北インターから東京方面に、長坂インターで降り、山梨県道 28 号線から国道 141 号に入り、野辺山(長野県)を通り、小海線海ノ口駅手前の海ノ口大橋西交差点を右折し、村道に入り、小沢志なの入トンネルを抜け、南相木村に入り、県道 2 号線まで走った。県道 2 号線を小海町方面に 2km 程走ると、北相木村に入り、すぐに県道 124 号線との交点に出た。ここから、長野県道/群馬県道 124 号線(上野小海線)の起点の国道 141 号線馬流橋交差点までは、県道 2 号線走破の第 5 集の NO. 29 でほとんど走っていて、後わずかの馬流橋を挟んだ、県道 2 号と国道 141 号の 100m は、2020.12.1 を始め何度か走っているの、今日は残りの県道 124 号線を走りました。

県道 2 号線との交点(標高 940m)から、東方向に進みました。北相木村は東西に流れる相木川を中心に南北に連なる峰に囲まれた村で、標高も高い。県道 124 号線は、相木川に沿って緩やかに登って行き、大鱈峠から



の道との交点から 600m 程の所にある北相木村役場(標高 980m)の横を通り、加和志湖(標高 1200m)まで着きました。ここから少し行くと、川沿いから外れ曲がりの多い急な狭い山道になり、長野県と群馬県の県境の「ぶどう峠」(標高 1500m)まで続いた。

群馬県側は、標高がかなり低い(県道 124 号線と国道 299 号線交点で標高 600m)ところまで降りるので、狭い道のまま、急な下りのカーブの多い道を、ひたすら降りた感じがした。最初は山道で次から谷に沿うようにして、二代淵(中ノ沢川)との合流地点から、道は少し広くなり、人家も見え傾斜も軽くなった。よう

やく国道 299 号線に出た時はほっとした(長野県道/群馬県道 124 号線走破)。

道の駅上野まで行き、食事休憩でイノブタを食べた後、国道 299 号線を戻り、不二洞の入り口を見つけて山道を登り、上野スカイブリッジに到着した。長さ 225m 高さ 90m の歩行者専用吊り橋を往復した。又シャボン玉も見れた(30 分おきに舞う)。この日は、群馬県道 45 号線と国道 254 号線で長野県に戻り、佐久インターから帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.12.24

久米路橋を渡り信更町(旧信更村)を越え篠ノ井に

澤田 繁 著

(長野県道 70 号走破) (長野県道 387 号走破)

2024.12.24 国道 19 号線を長野方面に、信濃の国 4 番に歌われる「久米路橋」の撮影に向かいました。信州新町の中心を過ぎ、新久米路トンネル(1964 年完成)の手前を右折すると、県道 70 号線(長野信州新線)に入った。60m 程の久米路トンネルを抜け左にカーブした所から、久米路峠にかかる「久米路橋」が見えた。橋の手前に車を止め、付近を散策しながら写真を撮った。久米路橋は、古来より何度となく架け替えられて来た橋で現存する記録の中では 1611

四 尋ねまほしき園原や 旅のやどりの寝覚の床  
木曾の 棧(かほし) かけし世も 心してゆけ久米路橋  
くる人多き筑摩(つかま)の湯 月の名にたつ姨捨山(おばすてま)   
しるき名所と風雅(みやび)土が 詩歌(うた)に詠(よ)てぞ伝(つ)えたる



年の橋がある。信濃国の歌詞は明治 32 年に作詞した浅井湧がここを訪れて「心してゆけ久米路橋」と歌い込んだ。現在の橋は、昭和 8 年(1933 年)に鉄筋コンクリートアーチ式にて架けられた。又、橋の手前には、「きじも鳴かざば撃たれないものを・・・」の悲しい久米路橋の悲話(ひしや)が書いてあった。

久米路橋を渡り、昭和 41 年まで信更村(信田村・更府村)であった信更町吉原に入る。信更村は県道 70 号線を中心に西は犀川、北と東は旧篠ノ井市、南は旧大岡村に囲まれた村でいくつもの山間に集落がある村で現在は長野市になっている。吉原の標高が



450m で、今泉・三水・氷ノ田まで山腹を登る道で、かなり拡張が進んでいるが、いまだに狭い道は残っていた。学生時代からこの道は、松代の近くに下宿した関係で、帰省などに結構利用していた。又現在娘の家

が稲荷山な事もあって良く利用する。氷ノ田の標高が 620m で信更町の中心地（写真は信更郵便局から信更中心地を写す）まではこの高さが続く、信更町赤田からはゆっくり下り、篠ノ井に入りやや急に下り稲荷山駅付近で平野（標高 370m）に出た。県道 70 号線は平野に出た後、篠ノ井塩崎・二つ柳・御幣川地区を通り、県道 77 号線（旧国道 18 号線）との交点である御幣川交差点で終点となる（県道 70 号線走破）。この日は、平野に出た所で、県道 70 号線の旧道を走って見たくなり、山道に戻り、旧道に入りました。狭く人家が多い通りにはあまり変わりはなく感じた。そのまま県道 70 号線に出て、御幣川交差点まで到達した。

最近、道の駅「信州新町」や「焼肉レストランむさしや」に行く事が多く、そのついでに娘の家に行くので、ほとんど久米路橋を通らず、<sup>たいらきみず</sup>平三水橋を渡り、少し急な登りで狭い道だが、かなりのショートカットになるので、こちらを利用している。

御幣川五差路交差点から、県道 387 号線（清野停車場線）に入った。県道 77 号線との交点の御幣川交差点までは、上記県道 70 号線と重複しており、御幣川交差点を通過し、国道 18 号線を渡り、篠ノ井横田地区に入り、千曲川を渡り松代町岩野地区に入ってすぐに国道 403 号線と交わったところで終点となった（2022.3.17 に県道 387 号線の始点である篠ノ井駅から終点の岩野（国道 403 号線交点）まで一度走っている）（県道 387 号線走破）

岩野から国道 403 号線を松代町市街地に向かいました。松代町清野地区に入り、中道島交差点で旧国道 403 号線の方に右折し、蔦屋本店に行き「おやき」と「松代せんべい」を買い、長野インターから帰宅した。

#### 【付録】

#### おやき（松代）

「蔦屋本店」の大名おやきは、今から 50 年ほど前に販売が始まりました。当初は上田地域でよく食べられている皮がふっくらとしたタイプ（現在の「大名おやき 蒸タイプ」）で、キャベツとあんこのみを販売。その後、**地元でよく食べられている**、ふくらし粉を加えない蒸しおやきも、独自に”蒸し+揚げ焼き”製法を生み出して販売をスタート。この”蒸し+揚げ焼き”おやきが、驚きのもっちり新食感と味わいを楽しめる「大名おやき 焼タイプ」です。現在も、「蒸タイプ」「焼タイプ」の 2 種類のおやきが店頭にならんでいます。

#### 「大名おやき 蒸タイプ」

ふっくらとした皮が特長のおやき。通年の種類は、きゃべつ、にら、粒あん、切り干し大根、野沢菜、かぼちゃ、ナス。

季節メニューもそろいます。

（雪菜・ふきみそ・・・）

※ナスはふくらし粉を入れた皮の食感が異なります。

#### 「大名おやき 焼タイプ」

蒸して軽く揚げ焼きしたおやきは、独特の超もっちりとした食感が唯一無二の味わい。通年の種類はナス、野沢菜、ニラ、しめじ入切干大根、キャベツ、かぼちゃ、つぶあん。

季節メニューもそろいます。

